

令和3年3月に決定・公表した『調布駅前広場整備計画図』の概要

(1)ゾーニングについて

4つのゾーニングを設定し、それぞれのゾーンのイメージに合わせた整備を行っていく。

①イベントゾーン

- ハレの場として賑わいや交流を創出する空間
- 日常の憩いや交流を創出する空間

②コミュニティゾーン

- 品のある落ち着いた空間
- 子どもからお年寄りまで誰もが憩い、くつろぐ空間

③みどりの庭ゾーン

- テナントビル等と緩やかに分節する空間

④おもてなしゾーン

- 市の新たな顔・玄関口としての雰囲気演出する空間

(2)歩行者動線について

調布駅から南北バスロータリーや周辺商業施設、駅周辺の公共施設をつなぐ経路を歩行者動線に設定する。

(3)誘導用ブロックの配置について

- 歩行者動線の上に誘導用ブロックを配置する。
- 敷設する具体的な配置などの詳細については、今後も継続的に関係団体と協議の上決定していく。

(4)イベント空間について

歩行者動線や調布駅前広場周辺の空間特性を踏まえ、イベント空間（約2,000㎡）を設定する。
⇒現在のイベント広場と同程度の面積を想定

(5)自転車の通行について

- 歩行者の安全性と自転車の利便性を両立できるような通行のルールを検討していく。
- 検討に伴い今後社会実験を実施し効果を確認。

(6)上屋の設置について

- 駅出入口と南北ロータリーをつなぐ上屋については、令和7年度の完成時点での設置は行わず、現在の空間を維持していく。
- 南側の障害者乗降場に、雨天でも安全に乗り降りできるための上屋を設置する。



(7)コミュニティゾーンの整備について

子どもから高齢者まで、どの世代でもうるおい・憩える空間として整備していく。

憩い空間

グリーンホール前のコミュニティゾーンについては、どの世代でも憩いやすらげる空間を創出する中で、子ども向けのベンチを設置する。

うるおい空間

ミストの活用を前提に、うるおい空間の創出と効果的な暑さ対策を講じられるよう、社会実験等を実施しながら整備していく。

(8)情報発信機能の確保について

- 特に市民ニーズの高い情報について、デジタルサイネージ等を用いて発信する。
- 広場内（地上）に単独での建築物の設置は行わない中で、観光案内機能を確保することを検討する。

(9)トイレ・マンホールトイレについて

- トイレは現在の暫定トイレ付近に設置する。
- マンホールトイレについては、調布駅前広場付近の設置を前提に、管理者等と協議し、設置基数等を決定していく。

(10)樹木配置について

- 各ゾーニングの特性と植栽コンセプトの観点から、樹木を配置する。
- グリーンホール前の配置については、関係部署等と協議のうえ決定する。

●各ゾーニングに合わせた樹木配置

①イベントゾーン

- イベント空間として妨げにならないようにイベント空間を囲うように配置
- サウスゲートビル前には、広場の各所から大ケヤキが望めるよう配置

②コミュニティゾーン

- 北側はイベント空間としても使用するため、外側に多めに樹木を配置
- 南側は木陰で憩えるように、樹木にベンチを組み合わせたものを配置

③みどりの庭ゾーン

- 樹木に囲まれ憩えるよう樹木を多めに配置し、併せてベンチを配置
- 周囲の建物を緩やかに分節するように植栽を配置

④おもてなしゾーン

- 広場の大ケヤキが見えるように樹木配置しつつ、木陰を創出するための高木を配置し、ベンチを設置

●植栽コンセプト

武蔵野林

照葉樹林帯であった関東平野が人々の営みとともに形成されていった樹林地を「武蔵野林」といい、そのイメージに調和した樹種選定を行う。

調布駅前広場事業における「検討項目」の検討状況について

今回のオープンハウスで情報提供する内容は、下表の緑色の項目のとおり。

検討項目			オープンハウス(令和3年11月)の報告内容	今回のオープンハウスの報告内容
ゾーニング			—	—
歩行者動線			—	—
誘導用ブロックの配置		誘導用ブロックの具体的な枚数や敷設の詳細位置等	今後も障害者団体等と定期的に意見交換やまちあるきを実施する。	—
イベント空間		水道や電気など地下埋設物の設置や利用ルール等	兼用工作物協定による管理を検討していく。	—
自転車の通行		歩行者と自転車の共存ができるようなルールづくり	原則押し歩きを主軸に検討していく。今後のルール制定に向けて社会実験を実施する。	自転車通行ルールの効果的な啓発方法についての社会実験を実施する。
上屋の設置			—	—
ゾ コ ミ ュ ニ テ ィ の 整 備	うるおい空間 (ミストの設置等)	どの世代もうるおいを感じ、暑さ対策にもつながる空間づくりのための具体的な設え	社会実験等の結果を踏まえ、オブジェからミストを噴射する設えを検討していく。	令和4年度にオブジェ型ミストを設置した。
	憩い空間	—	異なるデザイン・素材(木製・モルタル製)のベンチのイメージを作成した。	木製のベンチを設置する。
情報発信機能の確保		使用する機器や提供する情報の内容等	デジタルサイネージ等を活用して情報発信機能を確保していく。	—
トイレの設置		具体的な設置箇所や仕様等	現在の暫定トイレ付近に新設する。	—
マンホールトイレの設置		具体的な設置箇所や設置基数等	想定条件等の再検討を踏まえ、一時避難としての災害対応簡易トイレにて代用。	—
樹木配置		グリーンホール前の配置	樹木配置及び樹種は整備計画図で決定、植え込み地の数や位置等について今後調整。	北側ロータリー部分について、一部配置を変更。

これまでの自転車通行ルールに関する検討の経緯

01 現在の自転車通行における現状と課題

現状

全般

- ・ 自転車の乗り入れを禁止すべきとのご意見が一定数ある
- ・ 子どもを乗せての押し歩きは大変なので通行を認めてほしいといったご意見もある

東西方向

- ・ 京王線地下化前は東西方向の通行が可能だったため、現在も往来が多く見られる
- ・ 駅出入口から南方向に向かう歩行者との交錯が懸念される

南北方向

- ・ 南北の動線は、京王線地下化後に生まれた動線である
- ・ 東西方向の歩行者との交錯が懸念される。また、北側の商業ビル前の空間では歩行者と自転車が錯綜する

課題

調布駅前広場独自のルール等による自転車通行の制限が必要

ハード面での対応

- [例]
- ・ 自転車通行空間を設ける

ソフト面での対応

- [例]
- ・ 広場独自の自転車通行ルールを設ける
 - ・ 啓発活動（声掛け等）を行う

02 ハード面での対応（自転車通行空間）の検討

[特徴]

- ・ 東西方向の自転車の通行については、歩行者と動線を分けることができる

[問題点]

- ・ 南北方向の歩行者との交錯
- ・ 歩行者との衝突の可能性
- ・ 自転車の通行量の増加
- ・ 自転車の平均速度の増加



多くの歩行者が日常的に利用する調布駅前広場の性質上、原則として自転車は広場内で走行すべきではない

自転車の走行を促すような通行空間を設置することは難しい

03 ソフト面での対応（自転車通行ルールの設定）の検討

調布駅前広場は道路法上の歩道であることを踏まえ、以下の内容を基本に自転車の通行を制限することを検討していく。

① 調布駅前広場独自の自転車通行ルールの設定

[原則] 広場内は自転車は押し歩き

[例外] 押し歩きが難しい場合は徐行のうえ通行可能

- 例：・ 高齢者
・ 子ども
・ 障害のある方 等

② ルールを利用者に周知するための啓発活動を実施

▶ 効果的な手法について、社会実験を実施しながら検討

自転車通行ルールの啓発についての検討

01 啓発の手法の整理

サインスタンドの設置 (令和3年度に実施)



声掛けの実施



音声案内装置による呼びかけ



メリット

・直接利用者の視覚に訴えられる

・直接啓発ができる
・通行の抑止につながる

・常時利用者に対して啓発ができる

デメリット

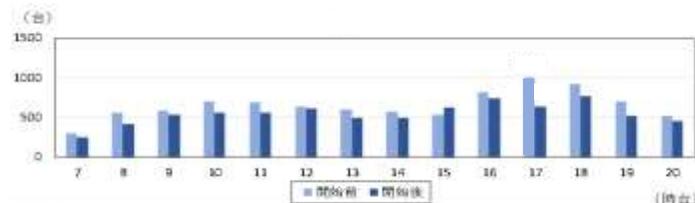
・啓発できるエリアが広場に限られる

・声掛けによるトラブルの発生が懸念される

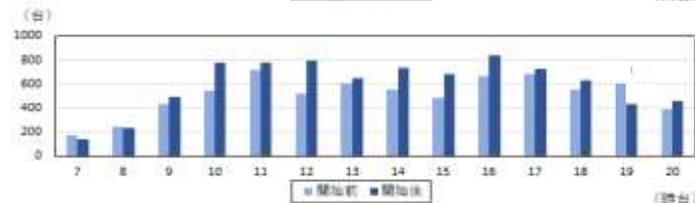
・広場滞留者が不快に感じる恐れがある
・騒音にならないよう、近隣との調整が必要

02 令和3年度の社会実験（サインスタンドの設置）を踏まえた現在の広場の自転車通行における課題

[平日]



[休日]



分析

- ・ 平日休日のどちらも、夕方に通行量のピークがある
- ・ 日中（10時～18時ごろ）は、常に500台/時間以上が通行している
- ・ サインスタンドの設置は一定の効果があるものの、よりそのまま通行する利用者を減らす必要がある

他の手法についても試験的に実施し、効果的な手法の組み合わせを検討する必要がある

⇒ ①声掛けの実施 と ②音声案内装置による呼びかけ を実施

▲ サインスタンド設置前後での、「そのまま」通行する利用者数

令和4年度に実施する自転車通行ルールの啓発に関する社会実験について

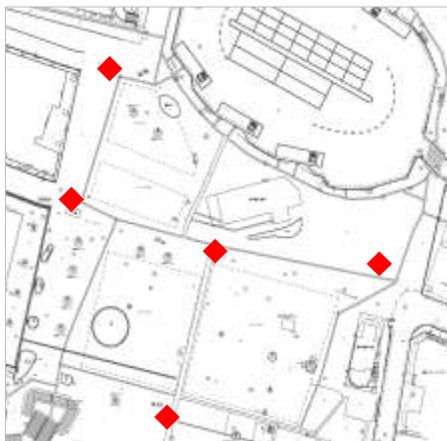
- 今後利用者に対し、自転車通行ルールを効果的に啓発していくための方法について検討するため、令和4年度に「①声掛けの実施」と「②音声案内装置による呼びかけ」を社会実験として実施する。
- 併せて利用実態調査を実施し、それぞれの手法についての効果を確認する。

① 声掛けの実施(案)

時期 10月下旬から10日間程度

時間 1日2時間程度（雨天中止）

場所 右図のとおり人員を配置



声掛けの実施に係る人員配置図 ▶

② 音声案内装置による呼びかけ(案)

時期 10月下旬以降

時間 [平日] 7:00～19:00
[休日] 9:00～19:00

概要

- 自転車は押し歩きをするよう、音声で周知する
- 広場の利用者に耳を傾けてもらえるように内容等を工夫する

■ 取組スケジュール(予定)



ミストの設置について

01 オブジェ型ミストの設置

ミスト本来の「噴霧直後に蒸発する際の気化熱を利用して局所的に気温を低下させる（環境省『まちなかの暑さ対策ガイドライン』から引用）」という効果だけでなく、

- ① 実際にミストが肌に触れ蒸発することで皮膚温度を冷やすタイプのミスト
- ② 子どもも楽しめるうるおい空間の創出と効果的な暑さ対策の取組

として、令和4年7月にオブジェ型ミストを設置・開放した。広場の整備完了後には、位置を変えて運用していく予定。

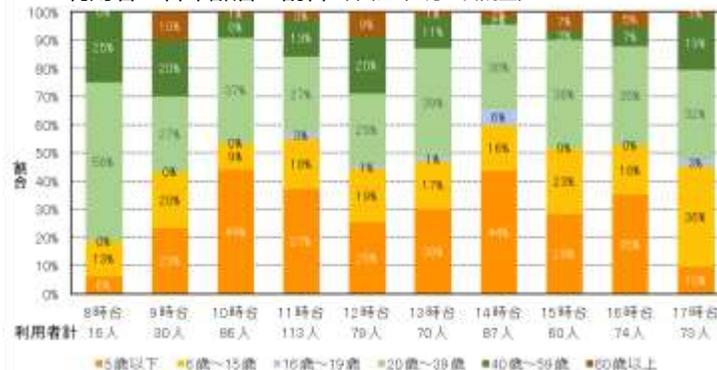
概要



- 稼働時間
8:00～18:00
- 稼働期間
令和4年10月まで(予定)
(注)現位置での運用期間は令和6年度まで(予定)
- 噴霧条件
気温25度以上、湿度80%以下
(注)今後変更する可能性あり



■ 利用者の各年齢層の割合（令和4年9月10日調査）



02 今後のうるおい空間の整備について

子どもから高齢者までうるおえる空間を創出するため、今後もミストの活用について検討していく。



▲ 例) 動線上に設置しているもの 出典：株式会社Do SCIENCE



▲ 例) ベンチと組み合わせたもの 出典：株式会社いけうち



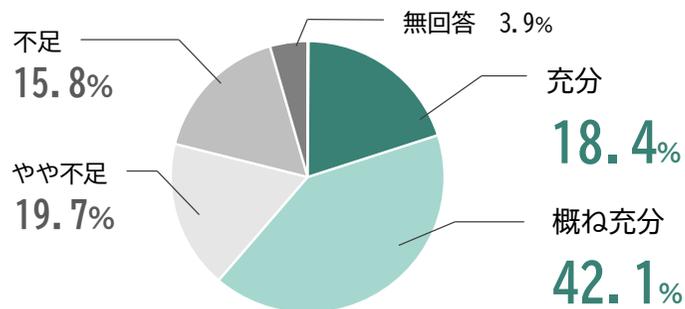
▲ 例) 風に流されにくいもの

ベンチの設置について

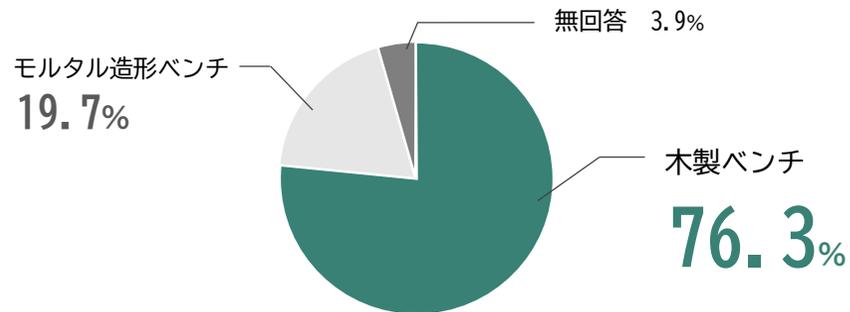
- 令和3年度実施のオープンハウスでは、将来設置するベンチについて「木製ベンチ」と「モルタル造形ベンチ」のイメージを作成し、どちらが調布駅前広場に合うと思うかアンケート調査を行った。結果として、全体の約8割の方が「木製ベンチ」の方が合うとの回答であった。

01 令和3年度のオープンハウスでのアンケート結果

問1 現在の調布駅前広場に設置されているベンチの数は充分か



問2 「木製ベンチ」と「モルタル造形ベンチ」のどちらが調布駅前広場に合うと思うか



02 ベンチの配置の考え方について

方針

- 令和3年度のアンケート調査では、現在の広場のベンチの数について、6割以上が「充分」「概ね充分」との回答であった
- また、76.3%が木製ベンチが合うとの回答であった
- 以上の結果等を踏まえ、調布駅前広場には木製ベンチを設置する
- 通年快適に利用できるように、木のまわりを囲うような配置等を検討していく
- コミュニティゾーン周辺については、子どもから高齢者まで木陰で憩えるようなベンチを検討していく

広場口の建替えについて

01 建替えに伴う条件と現状の課題

条件

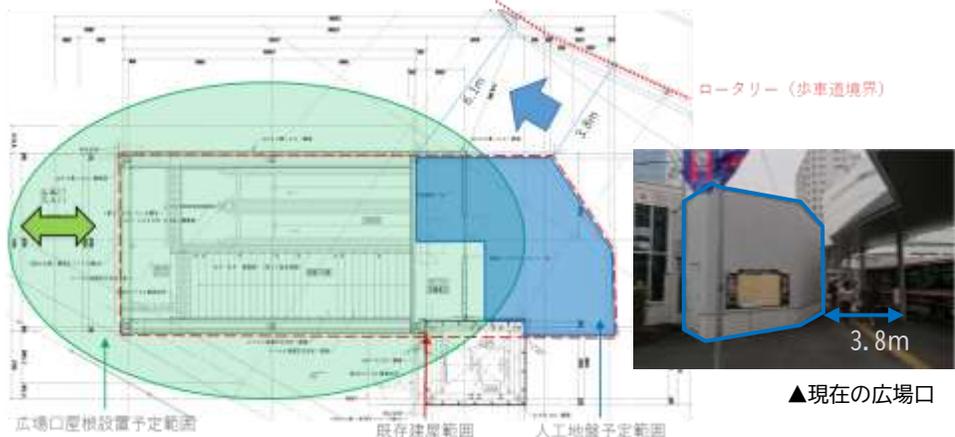
- 仮設の建屋は、京王線の鉄道構造物と一体的に整備されているため、鉄道構造物への影響を考慮し、現状と同程度の規模や形状にする必要がある。
- エレベーターは京王電鉄に所有権があるため、今回の整備の対象外である。

課題

- ①北側ロータリーと広場口の間が狭小 ⇒人工地盤を設置することで、歩行者空間を確保（資料左下参照）
- ②南北の見通しを遮っている ⇒壁面をガラス材とし、開放感を創出（資料右下参照）

02 歩行空間の確保について

人工地盤(下図の青色部)を設置することで、北側ロータリーとの間の歩行者空間を確保する(現状3.8m⇒約6.1m)。



03 建替えのイメージ

壁面にガラス材を使用することで、開放感を創出する。



▲ 建替えのイメージ図

■ 整備のスケジュール(予定)

